

Project No. 8

HAKODATE DEEP WEST

ロケーションベースド AR 技術を活用したサービスデザイン
Service design using location-based AR technology

Members

AOYAMA Daishin	KATO Miu	OKUMURA Masaya
ITO Kanata	KUDO Aru	MIURA Yumeka
IWAMA Hiroto	SUZUKI Shota	WAKAMATSU So
OBA Rinka	TAKAHASHI Kenta	KANO Genki
KATO Saki	TADA Ayaka	MIYAHARA Ryota

Teachers

YASUI Shigeya
MATSUBARA Katsuya
TAKAMI Ippei

プロジェクト概要 Project Overview

函館西部地区は全国有数の観光地である一方、人口減少、コミュニティの衰退など課題も抱えている。このプロジェクトでは、函館市役所、地域生活者を巻き込みながら、函館西部地区のさらに西部に当たる地域を「DEEP WEST」と呼称し、この地域の魅力を、新しい地域サービス、地域コミュニティのアイデアをロケーションベースド AR を活用しながら実装し、新たな価値を生み出すことを目的としている。

The Western District of Hakodate, a prominent tourist destination, faces issues like population decline and community decay. This project, in collaboration with the Hakodate City Office and local residents, provisionally names the far-west area "DEEP WEST" and aims to create new value by using location-based AR to showcase its attractions.

活動の流れ Timeline



これまでの活動 Activity Report

小田島水産訪問 Visit to Odajimasuisan

プロジェクトでの拠点となる小田島水産に訪問した。工場見学、オーナーの方との会話を通して DEEP WEST の地域性について認識を深めた。
We visited Odajima Suisan. Through a tour of the factory and a conversation with the owner, we deepened our awareness of DEEP WEST's regional characteristics.



フィールドワーク Fieldwork

西部地区を対象として、フィールドワークを行った。各3人ずつ計5グループに分かれて街を見て回り、発見した課題を全体で共有した。
Fieldwork was conducted in the DEEP WEST. Divided into five groups of three people each, we toured the city and shared the issues we discovered.



着想 Brainstorming

フィールドワークを通して発見した課題をもとに、強制連想法や、シナリオグラフといった異なる方法をグループごとに用いてアイデアを発散させた。
Based on the issues discovered through the fieldwork, different methods such as forced association and scenario graphs were used by each group to diverge ideas.



アイデア構造化 Idea Organizing

3つの班に分かれ KJ 法を行い、複数の切り口からアイデアの構造化を行った。構造化をもとにアイデアの方向性をまとめ、認識を共有した。
The KJ method was used in multiple groups to structure ideas. Based on the structuring, we summarized the direction of ideas and shared perceptions.



企画 Planning

アイデアの構造化をもとにアイデアを深め、収束させた。それぞれのアイデアでプレゼンテーションを行い、比較し、最終的に3つのサービスの企画に至った。
Ideas were deepened and converged based on the structuring of ideas. Each idea was compared in a presentation and three services were planned.



勉強会 Study Session

プロジェクト進行に必要な知識を学んだ。AR の基礎知識とサービスデザインの前例を学び、実装のビジョンを明確にした。さらに今後のグループワークを円滑に行うために、アジャイル開発の手法について見識を深めた。
We learned the knowledge necessary for project progression; we learned the fundamentals of AR and the precedents of service design to clarify our vision of the implementation. They also gained insight into agile development methods to facilitate future group work.

開発 Developing

それぞれのサービスごとに開発を行った。チームによってはアジャイル開発手法の一つとされるスクラムや、モブプログラミングも導入しながら3か月行った。
Development was carried out for each service. The team spent three months introducing Scrum, which is one of the agile development methods, and mob programming.

実証実験 Demonstration

実際に現地に赴いて開発したサービスの実証実験を行った。各サービスに対して得られた実際の声や意見を反映し、ユーザの視点に立ったサービスの改善に取り組んだ。
We actually went to the field and conducted a demonstration experiment of the developed service. We worked to improve services from the user's perspective by reflecting the actual voices and opinions obtained about each service.

ARhive

～ 新たな観光の目的を提供し 観光スポットを発生させるSNS～

サービス概要

このサービスは、旅先で撮った写真を旅先に残してくるという、新たな観光の目的を提供する SNS である。今日、多くの人が観光の一環として写真を撮る。しかし、現在の使い方では、こうした写真は、観光地自体の価値には貢献していない。そこで私たちは、観光地に設置されたノートから着想を得て、そこに来た証として、写真を現地で共有できるサービスを制作した。

目的

このサービスによって実現したいことは 2 つある。1 つ目は、これまで観光地になっていなかったものの、景観的・体験的に優れたスポットを観光地化するためのもう一つの選択肢を提供すること。2 つ目は、観光地を訪れるまでに候補に上がらなかったスポットに、気づく可能性を作り、地域における人の流れを変化させることである。

提案する機能・価値



函館市内各所に設置したスポットで、投稿を閲覧できる。投稿した写真は、最寄りのスポットに投稿される。



投稿された写真は、その地域ならではの場所に展示される。気になる写真があれば、実際に撮影された場所に行ってみる。

Members

KUDO Aru KANO Genki
TADA Ayaka
OKUMURA Masaya

PATHNAP

～ フィールドワークでの気づきを共有するサービス～

サービス概要

本アプリは、フィールドワークを効率化するためのツールである。写真やメモを 2 次元マップ上に記録し、タグ付けや検索機能でチームの情報を簡単に管理・共有可能。他の人のフィールドワーク記録も閲覧できるため、新たな発見やアイデアの共有がスムーズである。また、AR 機能を活用し、カメラ越しに記録の位置や距離を直感的に確認可能。現場での情報整理や共同作業を促進する次世代型フィールドワーク補助アプリである。

目的

本アプリは、フィールドワーク中の情報収集や共有の効率化を目的として開発された。従来の方では、現場で得た情報が散在しやすく、整理や共有に手間がかかるという課題があった。本アプリでは、写真やメモをマップ上に可視化することで、情報を直感的に整理可能にするとともに、AR 機能で現場での位置関係を把握しやすくする。他者の記録を閲覧・活用することで、新たな視点や知見の獲得も支援する。

提案する機能・価値



直感的な情報整理
写真やメモをマップに可視化し、簡単に管理・共有可能。



AR で現場支援
カメラ越しに記録の位置や距離を把握し、効率的な探索を実現。

Members

IWAMA Hiroto TAKAHASHI Kenta
OBA Rinka MIURA Yumeka
SUZUKI Syouta

めふたんぺ

～ イカ目線で塩辛の製造工程を体験できるAR～

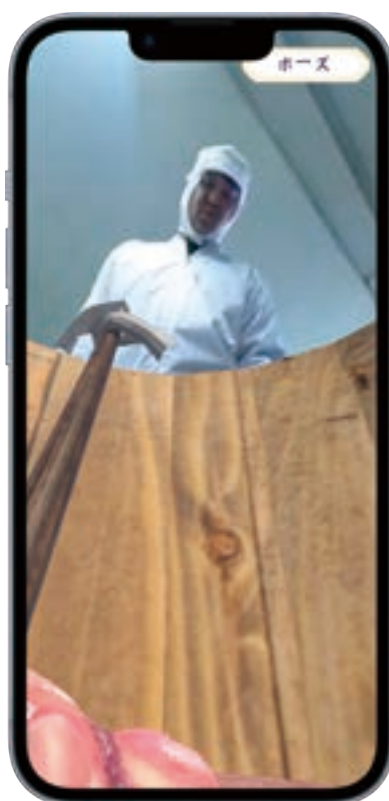
サービス概要

小田島水産は 100 年以上の歴史を誇る、地域に根ざした海産物店であり、その伝統的な製品づくりは地元の誇りとなっている。このアプリでは、QR コードを読み取ることで、ユーザーは座席に座ったまま、塩辛作りの工程を AR で体験できる。実際の製造過程を イカ目線 でリアルに再現することで、ユーザーはあたかもその場にいるかのような没入感を得ることができる。

目的

AR 技術を活用し、イカ目線という独自の視点で小田島水産の伝統的な塩辛作りを体験できるようにする。それにより、塩辛や地域産業への関心を高め、その魅力を広く発信する。工場見学は天候や時間帯により見学可能な作業に限られるが、AR によってその課題を補完し、見学への興味を促進する。AR の面白さを通じて地域産業の新しい形を伝え、多様な層に親しみを持ってもらうことを目指す。

提案する機能・価値



実際の AR アプリを使用した際のイカ目線です。塩辛製造工程をリアルに体験でき、製造の魅力をより深く感じられます。



記念撮影機能を活用し、小田島水産を背景にオブジェクトと一緒に撮影が可能です。来店のお思い出として楽しんでいただけます。

Members

AOYAMA Daishin Kato Miu
ITO Kanata MIYAHARA Ryota
KATO Saki WAKAMATU Sou